

経営比較分析表（令和3年度決算）

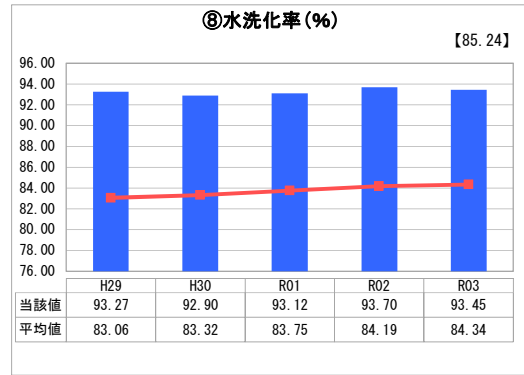
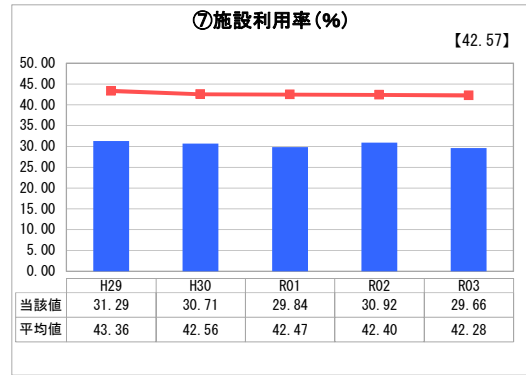
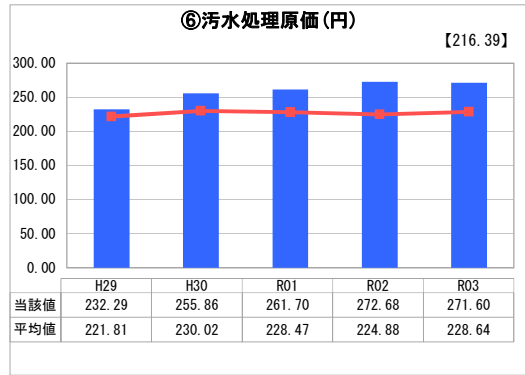
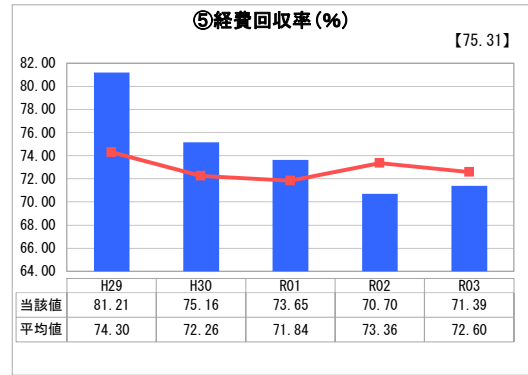
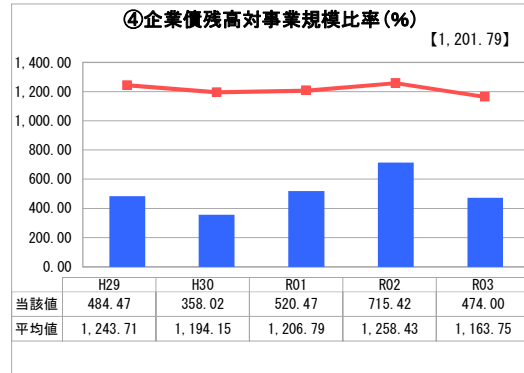
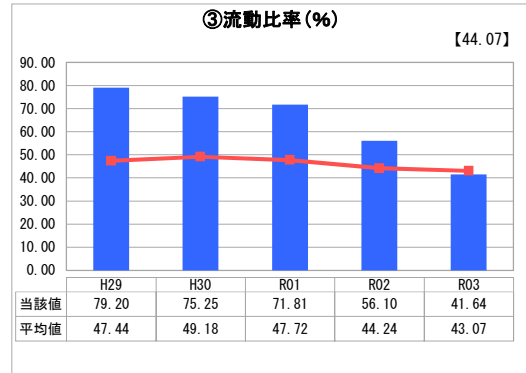
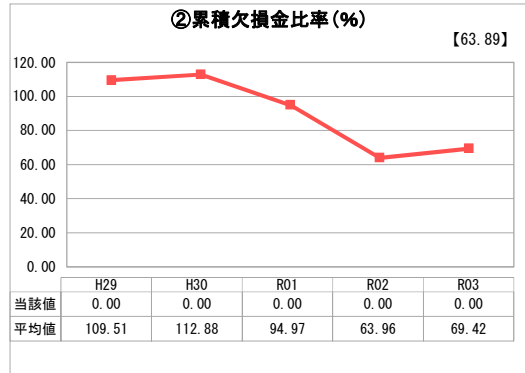
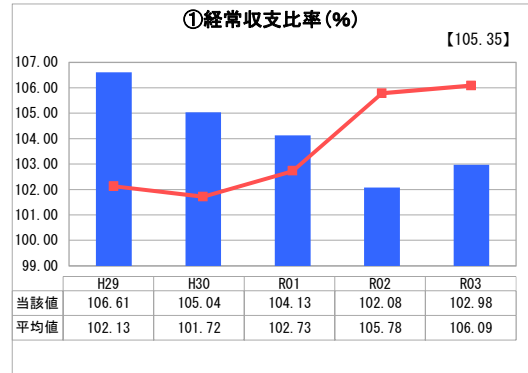
京都府 福知山市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|-------------|--------|--------------------------------|
| 法適用 | 下水道事業 | 特定環境保全公共下水道 | D2 | 自治体職員 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) |
| - | 66.03 | 6.73 | 98.33 | 3,718 |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 76,568 | 552.54 | 138.57 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 5,116 | 2.91 | 1,758.08 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該団体値（当該値） |
| — | 類似団体平均値（平均値） |
| [] | 令和3年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を上回る黒字経営となっており、前年度比+0.9ポイント増加している。今後は人口減少に伴う使用料収入の減少等を鑑みると、より一層削減していくことが予想される。

② 累積欠損金は現在のところ発生していない。

③ 流動比率は100%を下回っており、前年度比▲14.46ポイントである。これは、企業債償還金等の負担が大きく、年度末の現金預金の大幅な減少が大きな要因と考えられる。今後は100%を上回る十分な支払能力が確保出来るよう経営改善が必要である。

④ 類似団体の平均値に比べ比率は少なくなっている。しかし、企業債残高の数値が上昇し財務の安全性が低下していると考えられるため、今後は安定し優先度に応じたインフラ整備に努めつつも、起債発行額を抑える経営を行ってきたい。

⑤ いずれの年度も100%を下回り、必要な経費を料金により賄っていない状況にある。平成30年度以降に減少が見られるのは、施設の維持管理に係る汚水処理費が増加したためである。R3年度においては汚水処理原価が減少しているため、前年度比+0.69ポイント改善したが、類似団体平均を下回る結果となった。このことから、今後は、維持管理経費等に注視しつつ、財務の効率性の改善を図ってきたい。

⑥ 汚水処理費が減少したことにより、汚水処理原価も減少したが、今後は有収水量も人口減少に伴い減少するものと考えられるため、今後更なる経費節減に努める必要がある。

⑦ 100%を大きく下回り、類似団体の平均値と比べても低い水準にある。これは、処理区域内の工業団地への企業誘致を見込んで施設を整備した中で、企業誘致を現在も継続中であるためと考えられる。今後は施設利用率の向上を図り、経営改善へつなげる必要がある。

⑧ 類似団体の平均値を上回る水準となっている。これは、水洗便所への改造に必要な金融資産に係る利子補給制度の整備や生活環境の改善等の啓発活動等、水洗化率向上のための取組を実施してきたことによると考えられる。100%を目標とし、引き続き水洗化率の向上に努める必要がある。

以上のことから、平成24年度の法適用、平成26年度の会計基準の見直しにより、経営状況の実態がより明らかになった中で、人口の動向に注視し、必要な経営改善策を講じていく必要がある。

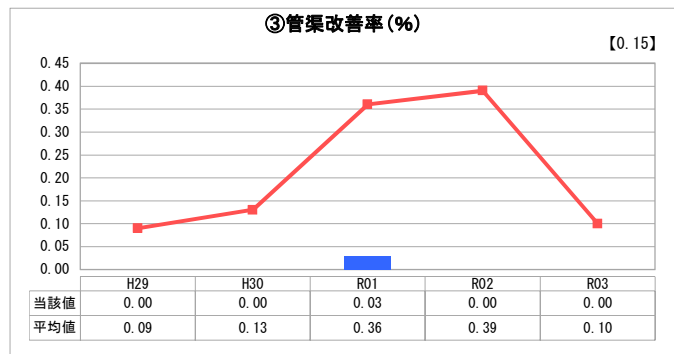
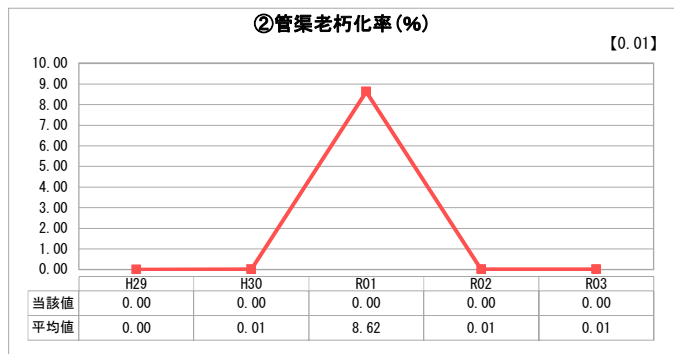
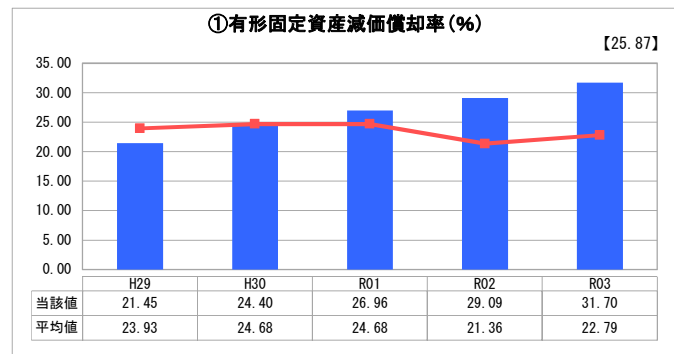
2. 老朽化の状況について

① 供用開始からの年数が浅く、100%を大きく下回っているため、施設全体の老朽化の割合は低いと言えるが、増加傾向にあるため適正な維持管理を行う必要がある。

② 供用開始からの年数が浅いため、耐用年数を超えて使用しているものはなく、健全な状態を維持できている。

③ 供用開始からの年数が浅く、現時点では健全な状態であるため、大規模な改築更新等の投資は実施していない。

2. 老朽化の状況



全体総括

本市の特定環境保全公共下水道事業については、黒字経営となっており、令和3年度末で累積欠損金は生じていないが、支払能力の確保や施設の効率的な利用、水洗化率の向上等、今後の使用料収入の減少に備えた経営改善を図り、施設の適切な維持管理を継続していく必要がある。

また、福知山終末処理場排水処理区域については、施設を適切に維持管理し経営を改善するため、平成29年7月使用分から使用料改定を行ったが、流動比率は依然として100%を下回っている状況であり財務の安全性が懸念される。そのため改善に向けた経営改善の方策を図ってきたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。